

編集後記

平成二十年度に創刊号をお届けしてから早三年が経ち、こうして無事に第四号を刊行することができました。

これもひとえに平素より当室の事業活動にご理解をいただいております皆さまのご支援によるものであり、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、本誌はその副題が示すとおり、当室が公文書館へ移行していく全過程を関係講演や論文、事業活動の紹介等によりできるだけ忠実に跡付けていくというコンセプトにより刊行を続けてまいりました。

本年度は本市の公文書館開設に向けて大きな動きがあり、平成二十三年六月には、公文書館を整備していくための基本的な方向性を取りまとめた「札幌市公文書館整備計画」が策定されました。これにより平成二十五年七月の公文書館開館に向けたスケジュールがより具体化し、開設準備事業を加速させる上で、強力な追い風となりました。

本誌では、この「札幌市公文書館整備計画」の全文を巻末に掲載しておりますので、ご参照いただければ幸いです。

また、当室では、公文書館開設準備事業の一環として公文書管理をテーマにした企画講演会を毎年開催していますが、昨年十月には、先進的公文書館で直接に開設準備や管理運営に関わられたお二方を講師としてお招きし、「公文書館開設準備期の留意点」というテーマで講演していただきました。

本号ではその基調講演二本の講演録と、その後にコーディネート・パネリストを加えて、さらに深く企画テーマを論じていただいたパネルディスカッションの全文を収録しております。

公文書館の開設準備や管理運営に直接関わられて、数々の経験がされてきた皆さまのお話は、大変に刺激的であり、また私たちが今後進むべき指針ともなるものでした。こうした貴重なご教示を、私たちのこれからの開設準備業務にどのように活かしていくのか、十分に検討を重ねてまいりたいと考えております。

続く竹内講演録は、昨秋開催された全史料協群馬大会での全体会報告であり、秋山・吉岡両論文は当室の非常勤職員が業務上の問題意識を深めつつ、実務の向上へと役立てるために自ら整理・考察を重ねた論考であります。

全国の皆さまから本誌に対する忌憚のないご意見・ご感想が寄せられますことを心よりお待ちしております。

なお、本誌は奥付に記載しております札幌市文化資料室ホームページの刊行物ページから全文をダウンロードすることができます。本誌では縮小された図表などもより鮮明な画像でご覧いただけるかと思っております。

また、企画講演会の主催者報告も「文化資料室ニュース」第一五号に掲載しております。

(URL) <http://www.city.sapporo.jp/bunkashiryō/newsletter/document/s/news15.pdf> (T・S)